



地域と共にある津和野高校

～人との縁で繋がるツコウ～

島根県立津和野高等学校

元・PTA会長 林 幸一

時代が平成から令和に変わるという記憶に残るタイミングと共に、2年間津和野高校のPTA会長を務めさせていただいた林と申します。

この度は、津和野高校における研究発表として、町内唯一の高等学校と地域との関わりを、私の立ち位置からや俯瞰的な角度などから見た様子をご様にお伝えできればと思います。

島根県西端の城下町・津和野町にある島根県立津和野高等学校。朱色の鮮やかな社の太鼓谷稲成神社の麓にあるその高校を、地元の人々は敬愛を込めて「ツコウ」と呼びます。

一時は生徒数も減り、維持存続も危ぶまれる状況の時もありましたが、地元自治体はじめ地域の皆さま、また関わる多くの組織団体の皆さまのおかげで再び活気を取り戻してまいりました。今では「地域みらい留学」等の動きもあり、町内近隣地域を大きく飛び越え全国より生徒を招き入れる学校になり、更なる飛躍を遂げています。

そのツコウ。地域みらい留学などの動きがあるにしろ、学校に関わる教職員以外の大人の人数がとて多いのが特筆すべきものだと思います。

高校常駐の高校魅力化コーディネーターの方々、校内に併設の町営塾「HAN-KOH」(※1参照)のスタッフの皆さん、卒業生・PTAの皆さん、そのOB・OGの皆さん、地域の皆さん等々。様々な立ち位置の皆さんがツコウに関わっています。その全てをお伝えしようとする和一冊の書籍が出来上がる程なので、この場では涙を呑んで割愛させていただきます。PTA活動についてもOB・OGの皆さんのお力添えは心強く、在任中も多くのシーンで助けていただきました。OB・OGの皆さんの、街に唯一の高校というシンボリックなツコウに対する地元愛は厚いのでしょうか。

また、先述した町営塾「HAN-KOH」のスタッフの方々や、高校魅力化コーディネーターの皆さんの存在もとても大きなものです。塾スタッフやコーディネーターの皆さんは全国様々な地域から津和野町へ来られていて、色んな角度からツコウを見て、足りているところ・足りないところ・もっと付け加えたいところ等を発見し、津和野町をはじめ近隣地域の様々な方々と繋がり、ツコウの教職員の皆さんや生徒の皆さんと引き合わせて、これまで数々のケミストリーを産んできました。それは教育関係だけに留まらず、建築・商業・農業・行政・産業技術・美術芸術等々多様な分野の方々と、大凡普通科の高等学校の教育にはかけ離れた存在の人までも時として引き込んだりもしています。私もそんな中の一人ではありますね。はい。

そのコーディネーターさん達が地域の方々とツコウとを引き合わせた事例をお伝えいたしましょう。



研究協議

ツコウにはT-PLANという総合的な探究の時間（※2リンク先HP参照）があるのですが、そのひとつに「プリコラージュゼミ」というものがあります。これは地元で農林業や商店など事業をされている方々や病院や福祉施設での職業体験、または文化芸術活動をされている方との芸術体験、郷土史や茶道など歴史文化に触れる時間など、それはそれは多岐に渡るプログラムが用意されています。そのゼミの中の一つに私の「ロックミュージック入門」という時間があるのです。まあ、ロックミュージックなんて普通科進学校のプログラムには全く関係ないんですけど(笑)。

私の場合は、地元で石見神楽社中の代表をしていたり、個人事業で音楽・映像制作や音楽イベントの運営とかの活動をしているところにコーディネーターさんが目を付けてくれて、その後T-PLANの方へ引き込まれていったという経緯があります。

そして、このプリコラージュゼミの講師の方々とは全て地域の皆さん。そしてゼミの目的としては、『今、自分の目の前や手を伸ばせば届くところに、自分の可能性を広げてくれる材料や存在がたくさんあるということへの気づき』や『自分にあったやり方で社会と関わる』や『経験したことを言葉にして表現する』ということを掲げています。なので、ゼミ終了後にはきちんと振り返り、ポートフォリオ化して自分にフィードバックするというをしています。発見～インプット～アウトプットまでを体験としているので、その後の生徒さんの「やりたい事」への具現化の助力にもなりますね。そこに様々な地域の方々関わっているというのは面白い事だと思います。

勿論、気づきや発見があるのは生徒さん達ばかりではなく、関わる地域の方々にもそれはあると思います。

有り難いことに毎年ロックミュージック入門の時間をセレクトしてくれる生徒さん達がいて、数年間ゼミの時間をいただいています。当然いろいろな生徒さんが参加してくれるのですが、なかには「私はシンガーソングライターになりたい」とか明確な夢を語ってくれる生徒さんもいたりして。そんな生徒さんが、その後自作曲を作り・歌い、自分で撮影編集してPVを作って発表していったりという、クリエイティブしている姿を拝見したりすると、直接的では無いにせよ「少しは助力できたかな？」と密かに嬉しくなったりもします。地域の方々にはこの感情がスパイスになるんだと思います。

また、地域とツコウを引き合わせるといえば、T-PLANのプログラムの一つ「トークフォークダンス」も特徴的です。（※3参照）

ツコウにおけるトークフォークダンスは、一学年の生徒一人に対して地域の大人が一人。つまり一対一の対話をフォークダンス形式で回していくというもの。時間は1分間ずつ。目的はプリコラージュゼミ同様のものですが、これも地域の方々が一学年の生徒さんと同数いないと成立しないので大変。ですが、コーディネーターさんと地元有志の皆さんの声かけでプログラムが成立する人数が集まるという素晴らしさ。これは、コーディネーターさんやスタッフの皆さんが根強く活動されてきて、徐々にツコウの多岐に渡る活動が認知されてきたということもありましょうし、地域の皆さんの協力意識もその活動の中で強くなっていった形ではないかと思えます。勿論私も参加して多くの生徒の皆さんと意見を交わしました。

地域の個人とツコウを繋げる活動に加えて、近年は地域の団体とツコウを繋げて協同で目標に向かっていく活動も行われるようになって来ました。それが島根県が推進する「高校魅力化コンソーシアム構築事業」というもの。コンソーシアムとは、一言で言えば共同事業体。県が推進するこの事業の「一市町村一校のモデル校」の指定を受けたツコウは、地域を中心とした複数の団体と共に課題解決や目標達成、更には事業収



研究協議

益を産む事も視野に入れた活動も行われるようになりました。地域の個人・企業・団体にとっては、この事業活動はとても意味あるものだと思います。

ツコウを中心に様々な活動がされている事でしょうが、私が関わる場所では、観光の街・津和野のインバウンド対策として、地域に受け継がれる伝統芸能・石見神楽の台本の英訳とその冊子化を、津和野町観光協会と石見神楽社中とツコウとで実現化してみてもと提案してみました。それは丁度ツコウの生徒さんの中にも石見神楽社中のメンバーが数名在籍していたのと、観光協会のインバウンド対策への課題解決案と、ツコウのコンソーシアム推進事業とのタイミングが合致したのも追い風でした。コロナ禍で頓挫している部分がありますが、英訳が完了した演目もあり、冊子化に向けての作業も進められて、近い将来には「ツコウ生徒が英訳した台本」が世界各地に旅していくこととなるでしょう。

ざっと駆け足で私が地域人として関わったツコウの一面をお伝えしましたが、他にも多様な面で地域とツコウは色々な方々と様々な形で繋がっています。一時は存続の危機のツコウでしたが、今は関わる方々のお力もあり、地域にとってなくてはならない存在となり、またツコウにとっても地域というものは切っても切れないものであるのだと思いますし、私も地域人の一人として、ツコウは今後も地域と共に様々なものを生み出していく存在であってほしいと期待しています。

また、通う生徒さんにとっても、「やってみたい」を見つけようとすれば、探すきっかけを作ってくれたり、背中を押してくれたりするツコウはとても魅力的な学校だとも思います。それはきっと保護者の皆様にとっても同様かと。全てをお膳立てしてくれるわけでも最後まで手綱を引いてくれる訳でもないけど、一歩を踏み出すきっかけを作ってあげられて、無限の可能性を引き出させてくれる。ツコウってきっとそんな魅力のある学校だと思います。



※1 HAN-KOH HP



※2 ツコウHP 総合的な探究の時間



※3 トークフォークダンス